



神経発達症群（発達障がい）の子どもに対する支援と地域連携

キーワード

神経発達症群（発達障がい）、ADHD/ASD、社会・多職種連携、ADHD 診断・治療等の開発

研究内容

近年「こだわりが強い」「かんしゃくを起こす」「集団に参加できない」等、行動や社会性の問題を示す「気になる子ども」が多いと話題になっています。一方で「障害」と一括りに捉えることは問題と考えられています。私は乳幼児期から学童期こそ適切な対応のできる心理社会的環境の充実が不可欠と考え、そのためには家庭を中心に、保育・教育・行政等と医療者が互いに信頼し協力し合える関係が重要と考えています。本学の「かせい森のクリニック」での診療に保育士を目指す学生が同席することで実践の学びとし、大学院生の講義も担当しています。また医療・療育機関や自治体等との連携を深め、講演活動やいじめ問題対策、さらには PMDA での小児適応薬剤審議専門委員として適切な薬物治療の啓発活動等に取り組んでいます。



本邦唯一の「ADHD 診断治療ガイドライン」において「幼児期の ADHD 診断のための診察」を執筆



ADHD の診療の実際および課題などについて、2名の児童精神科医とともに小児科医として参加し、3人の対談をまとめた。中外医学社、2020

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・宮島祐「幼児期 ADHD 診断のための診察」(p.36-39)「幼児における ADHD 診断の可能性と限界」(p.136-140),『注意欠如・多動症 -ADHD- の診断治療ガイドライン』第5版, じほう, 2016
- ・齋藤万比古・飯田順三・宮島祐共著『ADHD クロストーク』中外医学社, 2020
- ・H.Ichikawa, T.Miyajima, et al. Phase II/III study of lisdexamfetamine dimesylate in Japanese pediatric patients with attention-deficit/hyperactivity disorder. J. Child Adolesc. Psychopharmacol. 2020; 30:21-31.
- ・K.Mikami, T.Miyajima, et al. Efficacy and safety of SDT-001, a dual-task digital device, in managing attention-deficit/hyperactivity disorder symptoms in children and adolescents: a phase 3, randomized, standard treatment-controlled study. Psychiatry and Clinical Neurosciences.2025
- ・独立行政法人：医薬品医療機器総合機構(PMDA) 専門委員 (2016年～現在)
- ・杉並区地域自立支援協議会委員, 杉並区発達相談すこやか事業専門医
- ・入間市いじめ問題調査審議会会長

社会連携・産学連携の可能性

神経発達症群の小児適応薬物開発や検査器具の開発などに携わっており、これらの領域で連携が可能です。